

支え合い・学び合う環境の構築Ⅳ

ー社会の変化に柔軟に対応するために必要な教員の資質・能力の検討ー

企画者	達 直美	(東京都立光明学園)
	広兼千代子	(広島大学大学院人間社会科学研究科)
	太田 容次	(京都ノートルダム女子大学)
司会者	達 直美	(東京都立光明学園)
	太田 容次	(京都ノートルダム女子大学)
	広兼千代子	(広島大学大学院人間社会科学研究科)
話題提供者	若松 亮太	(広島県立呉南特別支援学校)
	石井 幸仁	(三重県立松阪あゆみ特別支援学校)
	達 直美	(東京都立光明学園)
指定討論者	菊地 一文	(弘前大学大学院)

KEY WORDS: 資質・能力 教員のキャリア発達 教員養成

【企画趣旨】

新学習指導要領では、地域や社会と共に社会の大きな変化に対応していく資質・能力の育成を目指す「社会に開かれた教育課程」の実現が求められている。また、その実現に向けて、教育活動全体を通して児童生徒が社会とのつながりの中で学びを深め、より良い人生を送ることを目指した、適切な指導及び必要な支援の充実に求められている。

これらを支えるものとして、教育への使命感や責任感、教育的愛情、教科等に関する専門的知識のほか、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション力等の様々な資質・能力がこれまで挙げられてきた。これらは不易なものである一方で、時代とともに変化する様々な事項への対応が求められる側面も有しているため、教員自身が社会とつながるとともにその職務をととして研究と修養に努めていくことが肝要であると考えます。

昨年度のシンポでは、「自ら考え課題解決に向かう力」に着目し「思考し行動する力」の育成に焦点化し検討した。その結果、新型コロナウイルス感染症等、急激かつ前例のない社会変化に柔軟に対応するために必要な力であることが再確認された。また、教職経験等の各段階においてこの力の核となる具体的な資質・能力とその育成方策に関する協議を通して、立場の違いを生かした「対話」の重要性が確認された。

変化の激しい社会を生き抜いていける資質・能力の育成のためには、教員自身が社会の変化を的確に掴み、その状況に応じた適切な学びを提供する力が求められると考える。そこで上述した資質・能力に関連し、自律的に学ぶ姿勢や学び続ける意識を育むために何が必要かについて検討した結果、本シンポでは OJT をテーマとして取り上げることとした。OJT は、最も身近で効果的な人材育成の方法の一つである。しかしながら、学校における OJT が固定化された立場からの一方的な指導になってしまうと教員の成長にはつながりにくいという課題を有する。「自律的に学ぶ姿勢や学び続ける意識」の育成を目指す OJT では、主体性・自律性が重んじられ、教える側と教えられる側の相互作用による学び合いを大切にすることがあると考える。協議を通して OJT の在り方や、求める資質・能力に応じた具体的方策等について検討したい。

【話題提供者の趣旨】

1 大学での教員養成で育成する資質・能力とは（太田）

大学での教員養成、特に多くの学生が、児童生徒の段階で自身が在籍し、その学びを体験してこなかった特別支援学校教員としての資質・能力を育成するためには、私立大学ならではの課題も含め、課題が多いと感じているところである。可能な限り学生の主体性を尊重し、どのような問題意識を持っ

ているのか対話を重ねる中で、多様な価値観に共感することが多く、その上でどのような実際の学びが必要なのか共に考えるように努めている。少人数での私立大学の特徴を生かした教員養成の実践を報告する。

2 地域協働の取組を通して育成する教員と管理職の資質・能力とは（広兼・若松）

「挑戦し続ける学校」を目指し、広島県立三原特別支援学校高等部は地域協働の取組を更に発展させ、地域との「共創」活動を進めている。教員自身が生徒や地域の人たちとの関わりの中で成長し、教員同士が刺激し合いコンフリクトを経ながらチーム力を高めることによって、新たな価値を創り出している。これは、年齢や経験年数の違いを超えて、信頼関係を土台とした相互作用による自主的・主体的な OJT によって、教員同士の教え合い・学び合いが「守破離」を生み出していると言える。当該校の取組を例に、チャレンジし続ける教員の資質・能力を育てる OJT の在り方について意見交換したい。

3 教員研修を通して若手育成の実務を担う教員に求められる資質・能力とは（石井・達）

石井は、特別支援学校のコーディネーターとしてセンター的機能の役割を担い、地域の学校等に様々な支援を行ってきた。地域への支援を通し、教員に必要な資質・能力や特別支援学校の教員として必要な専門性が見えてきた。それらを補うために従来の校内研修に加え、教員への校内支援を行なっている。達とは、研究主任として初任研や年次研を担当し、若手育成の役割を担い、自律し学び続けるための方策を試行してきた。両者の取組の成果と課題を通して、OJT の在り方や必要な資質・能力とその育成について意見交換したい。

【指定討論者の趣旨】

教職大学院では、学部新卒院生と現職教員院生が協働的に諸課題に取り組み学び合うことや理論（講義）と実践（実習等）との往還をととして、省察力を核に課題探求力、協働力、自律的發展力の育成を目指している。省察力はこれまでの振り返りだけでなく、いまとの向き合い、これからへの展望に必要な力であり、その積み重ねが「キャリア発達」につながる。また、協働力は今後の課題解決に向けて必須の力といえ、これらは OJT において必要な視点と捉える。院生の協働は OJT の効果に近く、メンターとメンティーの関係を越えた相互作用を生じさせ 4 つの力の育ちにつながると捉えている。指定討論では各話題提供での相互作用を生じさせる仕掛けに着目し、その効果的な方策等について共に検討したい。

(TSUJI Naomi, HIROKANE Chiyoko, OTA Hirotsugu, WAKAMATSU Ryota, ISHII Yukihiro, KIKUCHI Kazufumi)